

「琉球歴史の魅力」

琉球歴史浪漫の会顧問、劇作家 ● 亀 島 靖



毎

月第三水曜日午後七時、登録年齢がわからない中高年（？）の男女がつどう集会がある。登録会員

は、二十七名、構成員は沖縄県観光ボランティア友の会会員、那覇市街角ガイド、那覇市観光案内所、久高島、旧知念村文化財案内講師、中城城跡ボランティアガイド、とみしろ史跡友の会、糸満市観光市民ガイド、うらおそい歴史ガイドの会、沖縄平和ネットワーク、また那覇バス、東陽バス、沖縄バス、中部観光バスの指導員、個人タクシーの経営者三名等、多岐にわたっている。

会員はいずれも現場経験五年以上というベテランで、文字通り沖縄観光最前線の人材ばかりである。このメンバーが、毎月、懇親

と研修を兼ねて集うのが「琉球歴史浪漫の会」である。それぞれ一家言を持つ口うるさい年齢の御仁ばかりで、自由にすると収拾がつかないので、一応、会則を作り役員を置いて運営されている。役員になると苦勞が多く、早く年をとるとも言われているが、断る人物はいない。

会の発足の原因は、平成十六年二月に実施された沖縄県観光産業人材育成事業の中の歴史・世界遺産ガイド養成講座である。プロの歴史ガイドを養成する講座だが、会員は、この講座に参加したメンバーで、講座の終了後、別れ別れになるのが残念と言うことから、自然発生的に生まれたのが「浪漫の会」で足かけ六年を迎えることになる。毎月、発表担当を決め、現場での問題、各地域の歴史、文化、等を研修している。年に一度はフィールドワークを行い「ウンジャミ」等の文化行事等を視察して実体験を積んでいる。時には、伊平屋島、伊是名島、久米島、奄美大島等にでかけて史跡の勉強会なども実施している。

会が継続している大きな理由

は、会員個人の参加努力もさることながら、会員一人一人が琉球歴史に魅力を感じていることに他ならない。学校で教わらない琉球史には、いろいろな疑問点が残されており一人で解決するには困難な面があるが、会員お互いで議論することでのキーワードが見えてくる場合が多い。

例えば、①ウチナーンチュのルーツは、どこから来たのか？②なぜ、小国琉球が、国際大国中国から五百年間も優遇措置を受けられたのか？③なぜ、琉球の進貢船は、洋上で一度も倭寇に襲われなかったのか？④日本初の全身麻酔手術を行った高嶺徳明とは、どんな人物なのか？⑤沖縄県の世界遺産の半分近くを作った、名君・尚真王とは？⑥源為朝の琉球渡来は真実か？⑦なぜ、台風が多い沖縄で、グスクは風当たりの強い丘の上に築かれているのか？⑧なぜ、二千年前の中国の貨幣「明刀銭」は、本土では出土せず沖縄だけで発見されるのか？・・・その他に、護佐丸はなぜ、生没年が不詳なのか？なぜ、久高島は、神の島と呼ばれているのか、等他にも各地域

のローカル性ゆたかな疑問点が数多くある。

日本史と違い、東南アジア、中国、朝鮮国等との異国との交流で育まれた琉球の王国史と文化は、会員につきせぬ興味と関心を与えてくれている。また、会員同士の情報交換によって、次のようなメリットが生まれている。①これまで各地域のボランティアガイドによりそれぞれ異なっていた歴史用語や表現手法が、歴史の共通認識によって統一した歴史表現でガイドできる。これは受ける側の観光客、修学旅行生にとっても分かりやすく好評である。②各地域の伝説、民話等、協同学習したものを説明に取り入れ、よりエンターテイメントにあふれたストーリーを県外者に提供でき、琉球史に関心をもたせることができる。③現場で得た観光客の新しいニーズ等を、定例研修会で情報交換することによってスムーズなガイドンスが組み立てられる。県外からの観光客に琉球の歴史を分かりやすくガイドすることが会の目的でもあるが、次の目標には外国語のガイドンスコースがある。